

京都市環境審議会 第3回京の環境共生推進計画評価検討部会  
議事摘録

日 時 平成22年12月20日(月) 午前10時～12時  
場 所 職員会館かもがわ2階中会議室  
出席者 小幡部会長, 板倉委員, 遠藤委員, 大久保委員, 奥原委員, 徳地委員, 中川委員,  
長谷川委員, 深尾委員  
欠席者 松本委員

内 容

1 開会

2 議題

(1) 第2回京の環境共生推進計画評価検討部会の内容の整理について

・事務局より資料1について説明。

(意見なし)

(2) 環境指標の進ちょく状況について

・事務局より資料2について説明。

(小幡部会長) p5 に二酸化炭素排出量削減に関わる取組として環境家計簿があるが、環境家計簿をつけた家庭とつけていない家庭では、CO<sub>2</sub> 排出量がどのように変化したかというような定量的な分析はされているのか。

(小田切環境総務課係長) データはございません。

(長谷川委員) 民生・家庭部門の CO<sub>2</sub> については電気消費量で見ている。原子力で発電すれば CO<sub>2</sub> はでない。一般家庭の取組も大切である。投資と効果の関連を見ておかないと、これから取組を拡大すべきなのかどうか、別の手段を考えないといけないのかわからない。市民としてどう参加していったらよいのかもわからない。取組の成果を見せてあげないといけない。

(小幡部会長) 環境家計簿についても、電気やガスが1割ほど減ったという分析もあるようだ。企業は節約して効率も上がるということでもいいと思うが、家庭の場合も何かメリットがないと難しい気がする。

(中川委員) 今年も10～12月に環境家計簿をつける取組をしている。京都市だけでなく、政令指定都市で実施している。去年は参加者が意識を持って取り組んだこともあり、かなりの効果が出てきている。

また、12月5日に堆肥の寄せ植えを行った。その時にあわせて、環境学習会を行った。学習会だけだとなかなか人が集まらないが、学習会を終えてから寄せ植えをしましょうというメリットを加えると人が集まるようになる。

(遠藤委員) 環境家計簿への取組などは「気づき」が大切。「気づき」から始まる。生ごみコンポストを利用してたくさんの土ができたが、その土を持っていく場所がなくて続かない。使う場所などもあわせて整備してもらい必要がある。

(小幡部会長) 堆肥を作っても使う場所がないということで、全体がうまくまわるような大きな流れ、仕組みというものが必要になってくる。やはり何らかのメリットが必要になってくるのかなという気がする。

(大久保委員) 特定事業者排出量削減計画・報告・公表制度は各都市で導入が進んできているが、公表に加え、何らかの評価を加えていかないと効果が出てこない時期に入ってきていると思う。27 事業者に訪問調査をしたということだが、特定事業者のうち、どのぐらいの割合で訪問調査を実施しているのか、また、訪問調査をして、具体的なアクションにつながっているところがあるのか。

自排局 NO<sub>x</sub> の悪化の原因が欠測だということがわかったのはよかったが、自排局で 2 年連続で欠測がでるというのはよくない。何らかの対策は取れないのか。

プラ分別収集導入の 1 年後に回収量が減っているが、プラスチック使用量が減っているのか、混入率が増えてしまったのか教えてほしい。建設リサイクルは年間 200 件を超える立入指導を行っていることはすごいことであるが、なかなか建設系が減少しないということで、かなりてこ入れをされたのか。

(小幡部会長) 訪問調査全体はどのような計画になっているのか。

(納谷地球温暖化対策室担当課長) 平成 20 年度の市内の特定事業者は 148 事業者ある。訪問調査では、省エネ指導等も実施しており、実際に省エネ改善につながった実績もある。また、中小事業者の省エネ機器導入に際して助成制度を設けている。また、平成 23 年 4 月施行となる京都市地球温暖化対策条例で、一種のインセンティブとして総合的な評価を行うことになっている。

(小幡部会長) 平成 20 年度が約 12 万 t で、平成 21 年度は約 21 万 t ということは、削減がどのようにになっているのか。

(納谷課長) それぞれの特定事業者は、平成 18 年度から順次 3 年計画で削減計画を策定しており、申請する時期により基準年度排出量は異なるが、年度数値は各年度の基準年度からの特定事業者全体の削減量であり、着実に削減が進んでいる。

(小幡部会長) 自排局 NO<sub>x</sub> の当分の間の達成率が 80% から 50% に下がっているのは欠測値ということだが、欠測以外にも原因が考えられるのか。

(臼居環境指導課長) 国で年間 6000 時間以上のデータをもって行うように決めており、その時間に足りなかったために欠測になっているが、まったく数値が出せないということではない。南局は、耐震強化工事の関係で、測定ができなかった期間があるのかと思う。自排局の場合、分母が 6 なので、達成率の上下が激しい。

(松本環境企画部長) プラスチック製容器包装の分別収集は平成 19 年 10 月から全市実施しており、市民への周知を図っているが、非常に分けづらいということかと思う。製品プラ自体も何とか再生ルートに乗せ、分別をしていく必要があるのではないかと考えている。

建設リサイクルについては、京都市は建設現場が非常に多いので、その業者指導ということで、他都市よりもある程度強化している。また、京都市では告示産業廃棄物の受け入れを行っていたが、平成 21 年 10 月からは廃止している。

(小幡部会長) 自排局 NO<sub>x</sub> については、有効時間が足りずに欠測の場合は何らかのデータを記載いただきたい。

(徳地委員) 森林については、天然林の保全も非常に重要であることから、少し積極的に天然林の保全にも取り組んでいただきたい。京都市内にも保全に値するところがある。

(小幡部会長) 天然林の数値は出ていたか。

(徳地委員) 森林総面積、人工林の造林・保育面積はあるが、天然林面積はない。

(小幡部会長) 天然林とは原生林のことか。

(徳地委員) 原生林など、人工林でない森林である。

(小幡部会長) 面積はどのぐらいか。

(徳地委員) 森林面積の半分ぐらいはあるのではないかと思う。

(納谷課長) 約 6 割は天然林である。

(徳地委員) 保全に値するところは京都市の奥のほうにたくさんあるので、目標設定もしていただきたい。

(小幡部会長) 天然林の定義ははっきりしているか。

(徳地委員) 林野庁や環境省で定義しており、数値も把握できる。

(小幡部会長) 環境指標の検討は終わったが、来年度に課題として検討するということがいなか。

(小田切係長) 担当課と調整して、検討させていただく。

### (3) 重点プロジェクトの中間点検について

・事務局より資料 3 について説明。

(大久保委員) 重点プロジェクトは平成 22 年度で終了後、延長したり、新規プロジェクトを設定する場合、期間はどのようになるのでしょうか。

「自動車に過度に依存しないまちづくりの推進」は NOx 対策が大きなテーマになるが、背景として PM2.5 の環境基準設定への対応を入れたほうがいい。

長期的目標で自然共生があり、重点プロジェクトではそれに対応するものがないというのは寂しい気がする。

(小幡部会長) 目標年度については平成 27 年度でよろしいか。

(小田切係長) 各プロジェクト見直しの表の一番下に、平成 27 年度までを期間とすることを明記させていただいている。

(小幡部会長) PM2.5 については背景ということでもよろしいか。

(大久保委員) それ自体が重点プロジェクトというのは難しいと思う。

(小幡部会長) 自然共生については、重点プロジェクトに取り上げるかどうか、なかなか難しい。

(大久保委員) 検討していたのではないか。京都市は景観については全国的にもかなり特徴的な施策を推進しており、景観の中に自然や生物多様性も入ってきているので、景観が関わる部分では何か書き込める気がする。

景観と関連させて、傾斜地などで色々な条例を作っておられるところもあり、京都市の場合はやりようがいくつかあると思う。

(小幡部会長) 天然林の話もあるので、景観とあわせて重点プロジェクトを設定することは可能か。

(松本部長) 「自然環境の保全」の施策として、生物多様性も含めて入っている。施策としては入っているが、重点プロジェクトになると、環境事情や市民ニーズから優先的な分野に絞る

込んだことから、それに入れやすいところなくなっている。どこに入れられるか検討したい。

(小幡部会長) 京都の住みやすさ、伝統的な景観・文化として設定するほうがいいだろう。

(大久保委員) 京都市では地球温暖化対策に力をいれていることはわかるが、状況の変化ということであれば、名古屋での会議もあり、この1・2年で生物多様性に関しても、重点的に取り組もうという姿勢が示されてきたところである。それを受けて重点プロジェクトを作る意義はある。他の重点プロジェクトの施策も啓発系の施策が多いので、つくれないことはないはずである。景観については相当力を入れてやっているのだから、それと連携する施策であれば入れるものがいくつも出てくるような印象である。

(小幡部会長) 計画では景観地区指定面積、森林面積などがあるが、目標設定が非常に難しいかなという印象である。生物多様性、景観が大切というのはイメージとしてはわかるが、目標値があればなおいい。

(徳地委員) 保存樹・保存樹林数を使ってもよいのではないか。

(的場環境総務課担当課長) 保存樹・保存樹林数は新たに設定するのではなく、以前に設定していたものが維持されているかというものである。

(徳地委員) 確認していくことは保全においては非常に大事であることから、減っていないことを確認するという目標でもいいかと思う。

(小幡部会長) 維持ということで、下げないという目標があってもよいかと思う。

(板倉委員) 重点プロジェクトにするというプロセスの中で、市民のアクションにつながるものがよいということで、これまでの検討で絞られている。左京区の大悲山は原生林が残っており、面積的には少ないが、原生林を保全することは大事である。京都市内には質的には非常に高いものがたくさんあるので、そういうのを入れてほしいが、そうすると全部が重点プロジェクトになってしまい、何をしたいのかわからなくなるというのが昔の話の流れであった。

(小幡部会長) もう一度、検討していただきたい。

(遠藤委員) 次世代につなぐ、持続可能など、漠然とした言葉が多い中で、原生林、昔からの自然を子どもたちに残していけるというのは大事だと思う。

重点プロジェクトを読んでいると、市民向けに作っているのか、行政のために作っているのかわからなくなる。「目指します」となると行政がやるのかなという感じがする。

(小幡部会長) 重点プロジェクトにすることを再度検討していただきたい。検討の結果、だめということであれば仕方ない。現状維持の目標もあり得る。後戻りしたような形で大変かと思うが、お願いしたい。

#### (4) 平成22年度版 環境レポートの構成(案)について

・事務局より資料4について説明。

(小幡部会長) ページ数は前回と変わらないということか。

(小田切係長) その予定である。

(深尾委員) 「歩くまち・京都」。エコ通勤しているが、自転車駐輪場が少ない。ライフスタイルを転換しようと思ってもできない。

数値ばかりではわかりづらいが、小学校 5 年生版の環境副読本はわかりやすい。

(小幡部会長) 小学生は環境副読本を見るということで、環境レポートの対象年齢層をどのあたりに設定するか。

(松本部長) 去年の環境レポートは見やすくなったと思うが、詰め込みすぎているのではないかという印象もある。小学 4 年生版の環境副読本は字も大きく見やすくなっているが、5 年生版になると色々な項目が入り、環境レポートと同じような雰囲気になっている。環境レポートは、市民のために、京都市はどこを目指してどこまで来ているのか、私たちの市民生活はどうなっているのかを知らせる役割があるので、数値的なもの、経年変化などグラフも入れていかざるを得ないという思いもあり、迷っている。

基本計画でも同じような意見があったが、環境の場合、学校の環境副読本をずっと作っているので、環境レポートは自治会・町内会・大学生の方々に知っていただきたいという思いはある。

(小幡部会長) たくさんの人に読んでもらおうと思うと、特徴をどうやって持たせたらよいかわからなくなる。年次レポートなので、1 年間でどんな変化があったかをまとめる必要はある。また、全体を総括できるページがあるとよい。

(遠藤委員) 小学生のいるような世帯はいろいろな資料に触れる機会がある。その後、触れる機会が減り、定年後などに読もうと思ったときに字が小さくて読みにくいという話を聞く。最初のとっかかりの部分はやわらかい形にしておいたほうがよい。1 冊の中でも強弱をつけてはどうか。

(大久保委員) この環境レポートはよく考えられているし、レベルも高い。「区ごとの取組がわかるもの」をいれているが、全区平等に取り上げるとスペース的に厳しいので、「毎年順番に取り上げていく」というようなことをいれてはどうか。エコまちステーションのような特徴的な事業を取り上げればよいと思う。

(小幡部会長) ページ数は限られている。p3~6 は毎年いれていくのかどうか、減らして区民の取組に割くページを増やすか。

(徳地委員) 私も進ちよく状況を 1 ページにまとめるのは素晴らしいと思う。

「環境に関するよくある質問」は、京都に特化したものにするか、自分たちの取組の結果がわかるようにしたほうがよい。p10~19 の進ちよく状況は毎年大きく変わるわけではないので、ここよりも p3~6 にページを割き、進ちよく状況は 2 年に 1 回でもよいのではないか。

環境レポートはこの場で見えるぐらいであり見る機会がない。市のポスター、警察のポスターは各戸に配布されている。環境レポートを 1 枚にまとめたようなものを、区民しんぶんにも後ろにのせるなどしてもらえたらと思う。

(小幡部会長) 概要版の概要版を 2~3 ページで作る、それを全戸に配布する、広報誌につけて配布するという提案である。

(松本部長) 市民しんぶんは全戸配布しており、市民しんぶんの挟み込みという形で、例えばごみ、温暖化対策については特集号のような形で配るので、そのあたりは検討させていただく。

(長谷川委員) 内容としては十分合格である。環境副読本が以前からあるなら、環境レポートは一般家庭用、大人用になるのではないか。そうであれば、町内会をもっと活用すべきだと思

う。市民が取りにくるのを待つのではなく、もう少し前に出てがんばって配布する。

(小幡部会長) 環境レポートを誰のために配るのかということで、どのような活用方法があるのかについても、次回、もう少し話をさせていただきたい。

(中川委員) 私は新聞を読む時は全体を読まず、大きい見出しを見て、興味のあるところは文章を読む。市民しんぶんに入れる時も、関心が持てるような言葉をいれたほうがよいのではないか。

(小幡部会長) 何か1枚ものを作成して、広報誌などにいれることを検討してほしい。

### 3 閉会